

いま学校生活の中で ～子どもの側の視点に立った支援を～

勉強ができないわけではないのに…

A子さんは小学校3年生です。



担任のS先生は…

授業中ぼんやりしていることが多くて、授業時間内で決められた課題が終わらない。勉強ができないわけではないのに。

授業で発表したり、係の活動もちゃんとこなしているから、こちらの言っていることはよくわかっているはず。やればできるのになぜ…？

A子さんは…

いろんな音が聞こえてきて先生の言っている事がわからないの。廊下からもいろいろ音がするし、みんなが動くと、それがとても気になって、いろいろなことが思い浮かんで、何をしなきゃいけないか忘れちゃうことも…。



大切な話をする前には、先生に注目を向けるための声かけの工夫を行うことや、A子さんに対して個別的な声かけや合図(机を軽くたたく、肩にふれるなど)を行うことで、注意を促す働きかけを行いました。

背景について 教室の中は、廊下から聞こえてくる物音や、周囲の子どもの動きや声等、たくさんの刺激があります。このようなたくさんの刺激の中から先生が話している事に気付いて注意を向けたり、集中し続けることが難しいことがあります。また、何か気になることがあると、そのことについて色々な考えが思い浮かび、(今ここ)から注意が逸れてしまうこともあるようです。

子どもたちの行動が、先生や保護者、また友だちから〈不真面目〉〈だらしない〉〈乱暴〉といったフレーズで捉えられがちな面があります。けれども、これらには頑張りや努力によって解決できない背景がある場合があります。

〈注意の集中や配分〉〈見通し〉〈コミュニケーション〉などに難しさを抱えている子どもによっては、行動が日常生活の中での生活のしづらさとして表れている場合があり、「失敗した」「うまくできなかった」「叱られた」というマイナスの体験が増えた結果、自信をなくすことになりがちです。

子どもの側の視点に立ち、子どもの状況や、その時に感じている気持ちを察していくことが、理解の一步となります。そしてどうすれば子どもたちが過ごしやすいのかを一緒に考え、具体的な方法を教えていくことを通して、生活における振る舞い方や、より過ごしやすい手段を身につけていけるようサポートしていくことが大切です。

やめてって言うてもしつこいのは何ぞ？

C男くんは小学校4年生です。

お友だちは…

面白いヤツなんだけど、でも、追いかけて合ったりぶざけてるうちに友だちを倒したり、「やめて」と言うてもしつこかったり、どうしてなんだろう…。

C男くんは…

お友だちと一緒に遊んだり、面白いことしたりするのが大好きなんだ。お友だちも楽しんでるよね。僕の好きな鉄道のことを話しているのに、友だちがなぜか離れてしまうんだ…。



つい叱って対応してしまいがちですが、本人は気付いていない、わかっていないという視点で対応していくことが大切です。行動のコントロールが難しいことも考え、追いかけて合以外でのドッジボールなどルールの明確な遊びを提案してみました。また、彼の親しい友だちに、C男くんは鉄道のことを共有してもらいたい、聞いて欲しい気持ちが強いことを理解してもらおう伝えました。C男くんには「やめて」と言われたら、言うことをストップする、また3回言われたらやめることを先生との約束にしました。

背景について 友だちの表情やしぐさから、相手はどう感じているかを理解することや、場面や状況から、その場に応じた振る舞いをするために、苦手さがあるため、C男くんのように一方的にみえる行動をとってしまうことがあります。また、行動をコントロールしていく力が弱いために、力を加減することが難しいこともあります。

整理整頓ができないのはなぜ？

B男くんは小学校2年生です。

担任のT先生は…

机の上には前の授業の物が出しっぱなし、机の中は持ち帰らなければいけない配布物がぐちゃぐちゃに突っ込んだまま。次の授業の準備も言うてもできません。落し物も多いし、すぐなくすし。連絡のプリントがこなくてお母さんも困っているようですが…。

でも、B男くんは…

「片付け」「きちんと」と言われても、なにをするのかわからないんだ。どこに置くのかなあ。いつすればいいのかわかんないし。消しゴムや定規もいつもどっかいっちゃう。

お便りやプリントも持って帰るのを忘れていつも先生に怒られてばかりでいやなんだけど忘れちゃう…。



チャイム後に、B男くん個別に「片付け」の声かけをし、今やるべきことへの気付きを促すことから始めました。また、次の授業で必要な用具を黒板に書き、自分で認識し用意できるようにしました。授業中に机上に置く物は必要最低限にし、消しゴムや定規がなくならないようにしました。プリントは持ち帰り用の袋を作り、その中へ入れて持ち帰るようにしました。また、帰りの会の場を利用して、持ち帰る物について、クラス全体で確認する場をつくりました。

背景について 前の授業の道具を片付けて、次の授業の準備をするといった活動の手順をふむことが苦手なことがあります。また、何をどのように整理していけばよいか、机上のどこに置けば落とさなくてすむかなど、空間をとらえることや、見通しをもって考えることが苦手であることが考えられます。

事例 学校生活の不安をみんなが共有

学校で次は何をするのかわからないと不安に感じているD子さん。特に体育館では体育以外にもいろいろな行事、その練習など行くたびに違うことをしなければいけないため、「次は体育館」と言われると不安でした。

でも、好きなハンカチを「お守り」として持っていれば落ち着けることがわかりました。そこで体育館への移動の際は、いつ何をするのか早めに予定を伝え、「お守り」を持って行っていいことにすると安心して移動が可能になりました。

また、学芸会の時、他の不安を感じる子どもたちも各自「お守り」を持ってくることで、安心して過ごすことができ、無事出番を終えることができました。みんなもD子さんの不安を理解してあげることができるようになりました。